

1. 背景とねらい

本県オリジナル品種「きおう」は、平成4年から植栽が進められ本年初収穫となり販売が開始されたが、産地による収穫適期の判断に相異があり、収穫果に「きおう」本来の外観、食味が発現されない場合もあった等課題をのこした。また、地域により収穫前落果や内部裂果が見られた。

そこで、今まで明らかになった知見をもとに、「きおう」の幼木時の栽培について、参考に供する。

2. 技術内容

1) 収穫前落果防止対策

- (1) 地域や気象条件等によって収穫前落果が見られる場合もあるので、落果防止剤を散布する。
- (2) 落果防止剤の使用法は、下表による。

薬剤名	使用時期	濃度	回数
ストップール液剤	収穫開始予定25～15日前	1,000倍	1回

- (3) 落果防止剤の散布により、地色の上がりや収穫ピークが3～5日早まる傾向があるので、収穫は遅れないように注意する。

2) 収穫

- (1) 「きおう」の地色は、通常地色指数が2であれば、果色指数は3（白黄色）～4（黄色）を示し、収穫適期となるため、収穫期の判断の目安として地色指数を使用できる。
- (2) よって収穫適期の判断は、きおう用地色カラーチャートを使用し、地色指数2～3を目安に、果実の青みが抜けたものを収穫する。
- (3) その他の収穫の目安は、下表による。

硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	地色 (指数)	デンプン反応 (指数)	満開日起算 収穫日(日)
14～16	13以上	0.3	2～3	2～3	125～135

- (4) 収穫適期は、内陸部で9月上～中旬、沿岸北部で9月中～下旬と見込まれているが、若木は熟期が不揃いなため2～3回にわけてすぐりもぎを行う。

3. 指導上の留意事項

- (1) 地域により内部裂果の発生が見られたが、一般には生育後期の過度な土壌水分の変動によるものが原因の1つと考えられるため、暗渠等による排水対策や有機物の投入による土壌改良等を実施し、土壌水分の過乾・過湿をさけ、適正な樹勢の維持に努める。
- (2) ストップール液剤以外の落果防止剤については、効果が未確認であり検討中である。
- (3) 地色が2以下では食味が劣り、青みが残るため、早取りは避ける。

4. 試験成績の概要

第1表 「きおう」に対するストッポールの落果防止効果（1995, 岩手園試）

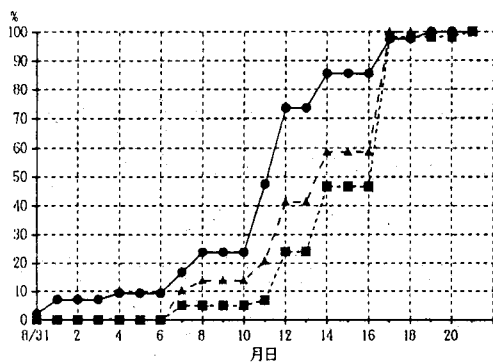
区名	処理前 着果数	経時別落果数						累積 落果数	落果率 (%)
		8/25	8/29	9/1	9/4	9/8	9/12		
3週間前散布区	46	1	1(1)	3(3)	1(1)	0	0	6(5)	2.2
2週間前散布区	62	0	2(1)	0	1(1)	0	2(2)	5(4)	1.6
無処理対照区	40	1	2(2)	0	2(2)	3(3)	1(0)	9(7)	5.0

注1) 3週間前は8/17、2週間前が8/25に処理

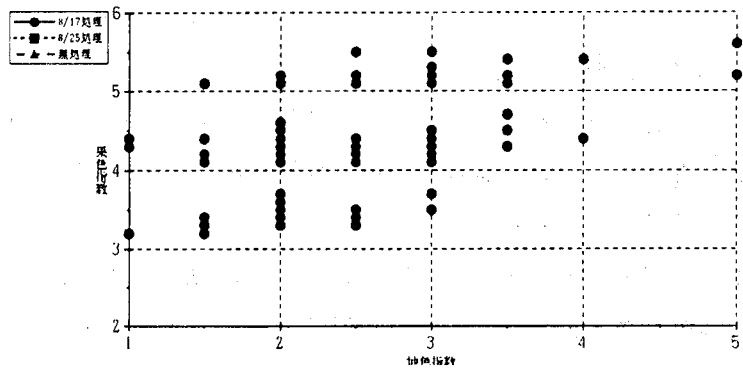
注2) ()内は枝折れによる落果。

注3) 落果率に強風等による枝折れによる落果は含まれていない。

摘要：ストッポールの3週間前処理によって、果色、地色上がりが助長された。



第1図 ストッポールの時期別散布による累積収穫率の差（1995, 岩手園試）



第2図 「きおう」収穫果の果色と地色の分布（1995, 岩手園試）

注) 果色指数

- 1: 緑～白緑(5GY 3504) 4: 黄色(5Y 2505)
- 2: 薄白黄色(9Y 2904) 5: 濃黄色(5Y 2507)
- 3: 白黄色(9Y 2905)

第2表 「きおう」の果色別果実品質（1995, 岩手園試）

果色 指数	収穫日	果重 (g)	硬度 (1b)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	地色 (指数)	ヨード反応 (指数)
3	9/17	302.3	16.1	14.0	0.32	2	3.0
4	9/17	274.6	15.6	14.4	0.32	3	2.5
5	9/17	267.1	14.9	14.4	0.28	3.3	2.8

注1) 調査日9/18

注2) 9/17収穫果はがくあ部のあいたものを調査

第3表 「きおう」の地色別果実品質（1995, 岩手園試）

地色 指数	果重 (g)	硬度 (1b)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	果色 (指数)	ヨード反応 (指数)
3.0	330	13.1	14.0	0.45	5.2	2.0
2.0	312	13.7	14.2	0.39	4.2	2.5
1.5	322	14.4	13.3	0.35	3.2	3.0

注) 分析果は、宮古市で9/20に収穫されたものを供試し、9/23に調査を実施